

7

- 5 [金] プラットワンコインコンサート 高柳鞠子「奏でる記憶、色づく情景」●PLATアートスペース
- 10 [水]ー11 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第303回例会 青年劇場公演『星をかすめる風』●PLAT主ホール
- 12 [金] イタリアから来日 ヴォヤジャーズ アンサンブル コンサート●PLATアートスペース
- 15 [月・祝] 犬塚沙希 × 中村真帆 ジョイントリサイタル「内なる声」●PLATアートスペース
- 24 [水] プラット親子わくわくプログラム2024『ベック』from スコットランド●PLATアートスペース
- 27 [土] 李宗潤バリトンリサイタルvol.7 with friends●PLATアートスペース
- 28 [日] 合唱団 Sakura Cantabile 第13回ファミリーコンサート  
合唱劇『サウンド・オブ・ミュージック』●PLAT主ホール

8

- 1 [木]ー4 [日] 『オーランド』●PLAT主ホール
- 4 [日] 超入門! 落語 THE STAGE●PLATアートスペース
- 7 [水] プラットワンコインコンサート Femme Fatale「浮力と瞬刻」  
●PLATアートスペース
- 11 [日] AYAMI BALLET STUDIO 第3回発表会● PLAT主ホール
- 17 [土] 荒井嗣雄 デビュー 40周年  
第19回テノール・リサイタル●PLATアートスペース
- 23 [金] 新津くらら ヴァイオリンリサイタル  
●PLATアートスペース
- 24 [土] 加藤訓子プロデュース  
「メタクセナキス」●PLAT主ホール
- 25 [日] The World of Arrangements  
野畑さおり アレンジの世界 vol.2  
●PLATアートスペース
- 31 [土]  
加藤敬二 × AMS アマノミュージカルスタジオ  
ミュージカルコンサート『Jewel Box』  
～未来への扉～●PLAT主ホール

# PLAT NEWS



TOYOHASHI ARTS THEATRE  
PLAT

表紙/『オーランド』

裏表紙/井垣壮太「井垣壮太 × 赤峰幸生コンサート&トーク」  
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団  
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF  
令和6年6月発行68号[隔月発行]

公益財団法人  
豊橋文化振興財団情報誌  
2024年7月-8月

vol. 68



TOYOHASHI  
ARTS  
THEATRE  
PLAT



プラットニュース

# PLAT NEWS

# CONTENTS

目次

## 1

目次  
表紙の顔

## 2

INTERVIEW:1

『オーランド』

宮沢さんの人となりから出る台詞は本当に魅力的で、楽しみでしようがない。

ウエンツ瑛士

## 5

INTERVIEW:2

加藤訓子プロデュース「メタクセナキス」

日本の表現はすごく神秘的な世界、空気感そのものがミニマリズムの境地なのです。

加藤訓子

## 7

COLUMN

プラット親子わくわくプログラム2024

『ベック』from スコットランド

アンディは見立てを多用し、子どもの中に、友達の部屋をつくっている。

## 9

INFORMATION

PLAT主催公演情報

## 13

PURA PURA

バラコの寄り道ぶらぶら

それでも蝶は舞う。

桑原裕子

## 14

SPONSOR

SUPPORT

TICKET CENTER

# INTERVIEW

インタビュー



ウエンツ瑛士[うえんつ・えいじ]

1985年生まれ。東京都出身。4歳でモデルデビュー後、ドラマ、映画、CM、バラエティなど幅広く活躍。2018年には語学・演劇留学の為渡英。帰国後、2020年に日本での本格活動復帰し更なる活躍を魅せる。最近の主演出演作品は、ドラマ「直ちゃんは小学五年生」(TX/22年)や、「ペンディングトレイン-8時23分、明日 君と」(TBS/23年)、映画『湯道』(23年)、舞台『ブラッド・ブラザーズ』(22年)、『てなもんや三文オペラ』(22年)、『太平洋序曲』(23年)、『アンドレ・デジール最後の作品』(23年)など。



加藤訓子[かとう・くにこ]

愛知県豊橋市出身。桐朋学園大学研究科修了後に渡欧、ロッテルダム音楽院を首席で卒業。国内外のグループへ参加後、グローバルにソリストとして活動。2011年第12回佐治敬三賞受賞。2013年第26回ミュージックペンクラブジャパン音楽賞最優秀録音賞受賞。2015年ヤニス・クセナキス作品を収録したアルバム「IX」がNPR(米)ベストソング選出、第10回CDショップ大賞2018受賞。2018年第73回文化庁芸術祭優秀賞受賞。次世代若手アーティスト育成を目的としたプロジェクトinc.を主宰、芸術監督として後進の指導に当たる。令和2年度愛知県芸術選奨文化賞受賞、豊橋特別ふるさと大使、米国在住。

# COVER

表紙の顔



『オーランド』

『オーランド』16世紀イングランドに生まれたオーランドは、エリザベス女王やあらゆる女性を魅了する美貌の持ち主。貴族でありながら、榎の木の下で気ままに夢を見て、詩を書くことを好む青年である。ある日、恋に落ちたロシア大使の姪・サーシャからは手ひどい裏切りにあい、傷心から詩の手ほどきを受けようと招いた詩人のニックには自信作を酷評される。ルーマニアの皇女・ハリエットからは激しいアプローチを受け、それに辟易したオーランドは逃げるように外交官としてトルコに渡る。忙しい政務の中で、オーランドの心はバルコニーから見える、身分も肩書きもない自分自身として生きるジブシーの暮らしの中にあつた。ある晩、外交官としての功績をたたえられた祝いの宴の後、オーランドは昏睡状態に陥る。暴動の中も眠り続け、7日目に目を覚ますと、女性の身体になっていることに気付く。今まで男性として生きてきた自分と、女性の身体を持ち女性として扱われる自分、そのギャップに戸惑いながらも、オーランドは今まで捉え損ねていた世界がよりはっきりと見えるようになったと感じていた。16世紀から20世紀まで、時代を超えて、たくさんの人との出会い、別れを通じて、生き方を探し続け、詩に紡いできたオーランド。最後に見つけた真実の「わたし」の姿とは…。



井垣壮太[いがき・そうた]

井垣壮太 × 赤峰幸生 コンサート&トーク  
—ピアノと服づくりの源にあるもの—

1987年豊橋市生まれ。東京芸術大学器楽科ピアノ専攻卒業。これまでにピアノを近田佐映、長谷川淳、迫昭嘉、ローラン・テシュネ、ピアノ・デュオを藤井隆史、ソルフェージュを三浦健一、音楽理論を平野貴俊の各氏に師事。

# INTERVIEW

インタビュー

## 『オーランド』

現代社会に問いかける物語がここに甦る!

8月1日[木]18:30開演

2日[金]、3日[土]、4日[日]13:00開演

原作=ヴァージニア・ウルフ

翻案=岩切正一郎

演出=栗山民也

出演=宮沢りえ、ウエンツ瑛士、

河内大和、谷田歩、山崎一

ヴァイオリン演奏=越川歩

会場=PLAT主ホール



20世紀モダニズム文学の重鎮で最も有名な女流作家のひとりであるヴァージニア・ウルフの代表作『オーランド』。

主人公オーランドが、時代も国境もジェンダーも飛び越えて、数奇な運命に立ち向かい、真実の「私」を探求する物語は、1992年には映画化もされ、世界中で愛される人気作。

青年貴族から女性へ変貌し、16世紀~20世紀を超えて生き続け、30代から年をとらない、この幻想的なオーランドの人生には、ヴァージニア・ウルフによる、英国においてあらゆる女性の権利が制限されていた社会への風刺的な視点が込められている。男性中心の時代から女性が一人の人間として自立してゆく様子を、演出家・栗山民也の原案、詩人・岩切正一郎の翻案で鮮明に舞台作品へと落とし込み、現代に甦らせる。



矢作——様々なジャンルで活動されているウエンツさんにとって舞台の魅力はどういうところでしょうか。

ウエンツ——皆さんおっしゃると思うのですが、お客さんと目の前で感情の交換ができ、キャストの方々の一瞬を味わえて、それをお届けできるのはすごく魅力的なことだと思います。僕は平均するとだいたい1年に1本舞台をやらせていただいているので、自分のその時の状態というか、成長を確かめられる場所でもあります。

矢作——2018年から演技の勉強にロンドンへ留学された理由と、その経験による変化はどのような点でしょうか。

ウエンツ——僕のルーツがドイツ系のアメリカと日本ということで、日本を出ることを自分が経験しないまま人生を重ねていくことが受け入れられず、まず出ていくことを選択したかったんです。これまで、いろんなイギリス人演出家に演出を受け、言葉と感情がすごく豊

かな方たちにたくさん出会えました。そのルーツがイギリスにあるような気がしたのでイギリスを選択しました。帰国してからは、お芝居にしろ、テレビにしろ、自分の人生を生きるにしろ、人とのコミュニケーションにしろ、選択肢が増えたような気がします。救えると思ったらおこがましいですが、手を差し伸べられる方法や、自分が提示できるものも増えました。あとはちょっと自信がついた気はします。

矢作——ウエンツさんにとってミュージカルと今回のようなストレートプレイでは、俳優としての心構えや意識の違いはあるのでしょうか。

ウエンツ——基本的には変わらないですが、ミュージカルは途中で音楽が入って、気持ちや視覚的にも音楽的、聴覚的にもお客様に変化があり、緩急が自ずとつく。でもストレートだと、身体表現と言葉だけで伝えなければいけないので、そこを意識して台本を読んだりしています。ですが、基本的には演出家の方の指示に寄り添っていきたいと思っています。

矢作——今回のオフアーがあった時、『オーランド』という作品についてどう思われましたか。

ウエンツ——正直、本を読んだ時は、わからない部分もありながら、でも栗山民也さん、宮沢えさんはじめ、素敵な役者の方々と一緒にやれるので、それこそが学びだなと思いました。

矢作——初顔合わせの栗山さんという演出家に対しての印象や期待することをお聞かせいただけますか。

ウエンツ——栗山さんは、ある種リアルな感情の交換の部分と、舞台として、エンタメとしてそれを見せるバランスが、すごく楽しく、お客様視線を常に持たれている方だと思います。そういう中でも『デスノート』とかミュージカルの演出で、人気漫画の作品を形にでき、しかも面白い。エンタメだけと嘘はない。そのバランス感覚と役者さんからの信頼感は、どの作品を観て

もあると思いました。今は、栗山さんの演出についていけるか、ドキドキしながら稽古開始を待っています。矢作——初共演になる宮沢りえさんについては、どのような印象を持っていらっしゃるでしょうか。

ウエンツ——僕ももうすぐ40代に入るので、周りからは「長いことやってるね」なんて言われ、いろんな紆余曲折もあったと思うのですが、宮沢さんは常に最前線でアップデートし続けている印象があります。そんな宮沢さんの人となりから出る台詞は本当に魅力的で、楽しみではない。何か学ぶというより、目の前に宮沢さんがいて、台詞を言っている時に、素の自分に戻らないように気をつけようと思うほどです。

矢作——俳優の皆さんが、男性の役も女性の役も、性別に関わらずいろんな役を演じることになりましたが、このタイプのお芝居は初めてですか。

ウエンツ——役が変わるといのはこれまで無いですね。この『オーランド』の持つメッセージ性を考えると、時代も変わり性別も変わる中で、求められるものも変わっていく。自分は変わらず同じように生きているのに、周りが勝手に変わって、という。そういうメッセージを思うと、役が変わることに固執する必要はないかなと。そこに新たな「変わらないという多様性」というものを見出せると思います。

矢作——山崎一さん、河内大和さん、谷田歩さんとの共演も初めてですか。

ウエンツ——初めてです。お三方は過去にご共演されていて「久しぶり」みたいな感じでしたが、僕は皆さんとビジュアル撮影の時に初めてお会いしました。谷田さんにまず「何て呼べばいい？」と気を遣っていただけ、懐深く迎え入れていただいたのが嬉しかったです。栗山さんの演出も皆さん受けた経験があって、僕が今回初参加でビビっているのも感じてくれて、「適当にやればいいよ」という言葉をかけてくれました。

## 宮沢さんの人となりから出る台詞は本当に魅力的で、楽しみではない。 ウエンツ 瑛士 出演

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 芸術文化プロデューサー

INTERVIEW  
『オーランド』



それは、ふざけるという意味の適当ではなく、適度な適当と。そういう言葉をかけてくれたのも嬉しかったです。今回、役者4人の年齢構成がしっかり分かれています。様々な役を演じる中でそれも関係なくなっていくのだろうかと思っており、とても楽しみです。

矢作——様々な劇場で上演する際に、どんなことを意識し、また、楽しみにしてらっしゃるのでしょうか。

ウエンツ——場所を変えた方がお客様の「待ってました感」があるというか、本来こちらがお客様を迎えているのに、とすれば「いらっしゃいませ」と、聞こえてくる感覚が、すごく好きです。東京の劇場ではお客様も東京に遊びに行っている感覚があるからか、あまり「いらっしゃいませ」と聞こえたことはありません。

そういう声を聞き逃さないようにしようと思います。その場所に行った時に、「今まで東京でやってきたからこうだ」というより、お客様の「よくぞ来ていただきました」にしっかり乗っていく感じを楽しみに、いつもワクワクしています。

矢作——初めてウエンツさんがお越しになる場所で「いらっしゃいませ」と言ってくれるはずの豊橋のお客様に、一言メッセージを頂けますか。

ウエンツ——この素敵なメンバーで『オーランド』でお邪魔させてもらいます。ぜひとも温かく迎え入れてほしいなと思うと共に、遠征でこの豊橋に来られるお客さんもたくさんいらっしゃると思います。せっかくですから、舞台を楽しむ前後に土地の美味しいものや、素敵な景色も一緒に合わせて、その土地に来た『オーランド』を楽しんでもらいたいなと思います。僕もたくさん馴染んで、いっぱいお散歩をして、劇場に向かってお芝居頑張りたいと思います。ぜひともよろしくお願いたします。

矢作——ありがとうございます。豊橋の劇場でお会いできるのを楽しみにお待ちしております。

# 加藤訓子プロデュース 「メタクセナキス」

20世紀の偉大な作曲家クセナキスの楽曲を打楽器と能舞で。

8月24日[土]14:00開演

出演＝加藤訓子(パーカッション)、中所宜夫(能舞)、IX Percussion(篠崎陽子、濱中陽香 ほか)

曲目＝『プレイアデス』『ルボン』『プサツファ』

会場＝PLAT 主ホール



日本の表現はすごく神秘的な世界、  
空気感そのものがミニマリズムの境地なのです。

加藤訓子 パーカッション

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 芸術文化プロデューサー

矢作—— 2022年1月に豊橋市民文化会館で「inc. percussion days」を開催しましたが、PLATでのコンサートは久しぶりですね。コロナ禍を経て、どのようなことを目標に今年のプログラムを組んだのかお聞かせください。

加藤—— 2016年から若手演奏家を育成する活動を続けていて、コロナ禍では幸いというか、国の色々な援助も時間もあったので、若手を連れ出して大きな打楽器の作品を演奏していたんです。とにかくライブ的なことをずっと続けよう。2021年にめぐろパーシモンホールでクセナキスの『プレイアデス』を初めて皆でやって、その翌年もまだコロナ禍で動きがままならないなか、皆を集めてライブの作品に1年間ひたすら取り組みました。生のアンサンブルを皆で続けてきて、ライブの大事さというのをすごく実感しました。近頃は各所の会館が活動を喜んで受け入れてくださるようになり、今までやってきたことが花開いていくのを感じています。「inc. percussion days」はワークショップもコンサートもあるフェスティバル的なイベントでしたが、若手の成長のためには劇場での本番がとても大切。それを今回の目標の一つとして組み立てて、2年がかりで今年のラインナップを揃えた感じですね。

矢作—— 次世代を育てるために場を設けることは、いつ頃から意識して始めたのですか。

加藤—— 私が若い頃は、常に一人でヨーロッパの色々な場所を巡って次に繋げてきました。ずっと自分のことだけをやってきたのですが、10年くらい前に3年間、桐朋学園大学で教える機会があり、学生たちは将来どうしようとか、どうやって音楽で食べていけるのかとか悩んでいて、自分が学生だったときと同じだなと思いました。それまでの周りの人とのことや、自分が舞台上に立っているなかで得てきたものを振り返ってみると、後ろには自分の半分ぐらいの年齢の世代がいる。悩んで辞めてしまうのは簡単ですけど、やらなければならないのに場所がないと学生たちが言っていたので、私や周りが協力すれば実現できることや、分け与えられることがあると思い「inc. percussion days」を8年くらい前に始めました。人前で演奏する機会があれば、演奏家はどんどん育っていきますから。

矢作—— 今回上演するクセナキスという作曲家の魅力や、その音楽に取り組もうとした動機をお聞かせいただけますか。

加藤—— クセナキスは、世界でも歴史に名が残る大作曲家のうちの一人だと思うんです。ルーマニア生まれのギリシャ系フランス人で、反ナチスのレジスタンス運動に加わり、銃弾で左目を失いました。大学では建築と数学を学び、ル・コルビジエの下にいた建築家でもあります。幸い打楽器の曲がたくさんありまして、かれこれ30年以上前に『ルボン』という曲がどうしてもやりたくって、クセナキスに通じる人や演奏を求めてヨーロッパ中を一人で周って。そこからずっと演奏し続

けてレパートリーになりました。クセナキスの曲は現代的で難しいと思うかもしれませんが、これもやはり太鼓なんだと思って聴いていただくと、和太鼓でわあっと盛り上がるのに似た、音の力をシンプルに感じる作品ばかり。太鼓や、皮と金属と木で出来た楽器で構成されている、土着的でリズムカルな作品です。私が好きでずっとやり続けている、皆さんにどうしても聴いていただきたいと思う作曲家ですね。

矢作—— 今回は加藤さんのソロもあれば、大人数で演奏するアンサンブルの曲もありますね。

加藤—— 『ルボン』と『プサツファ』を私がソロで演奏して、inc.の中から選抜されたメンバーによるIXパーカッションが『プレイアデス』を演奏します。大人数だと空間に響く音が断然違って、一人では到達できない世界観を作ることができるんです。実はクセナキスの曲はすごくメロディックで、とても音楽的だと思っていて。ひとつひとつは難しく聴こえても、色々な様子がメロディーの中にいっぱい入っている。お祭りの太鼓とチャンチキの音が重なると人に想い起させるものがあるように、メロディーが歌うというより喋っているみたいに、とっても良いフレーズがいっぱいなんです。それを生で同時に演奏する意味と意義は絶対にあると思います。『プレイアデス』の全楽章は世界でもなかなか上演されることがないので、若い演奏者に経験を積ませる良い機会。ここに聴衆が必要なんです。客席と一緒に空気をつくって、劇場での本番に繋げていければと思います。

矢作—— 長年ずっと演奏されている『ルボン』を、能と一緒に組み合わせる試みは加藤さんの発想ですか。

加藤—— 実はクセナキスは日本に憧れていて、特に能に興味を持っていたそうです。『ルボン』はリバウンドという意味の、ソロのシンプルな曲ですが、私がこの曲をトライするときに感じる日本的な「間」があるんですよ。能楽師の中所さんとは何回か一緒に作品を作ってきたので、能舞をつけていただくことをご提案しました。海外の人からみると日本の表現はすごく神秘的な世界ですよ。空気感そのものがミニマリズムの境地なので、日本的な世界をものすごく感じていただけたと思います。

矢作—— 最後に、豊橋のお客様へメッセージをいただけますか。

加藤—— 私がやっているのは、打楽器の中でもかなり攻めまくりのジャンル。何でも興味の入りは楽しいなと思うところから入っていくと思いますが、その先には果てしないものがあるということも少しでも味わってもらえたらすごく良いなと思います。2022年にクセナキス生誕100年を迎え、「メタクセナキス」を私の故郷・豊橋で上演できることが非常にありがたいです。打楽器は見るだけでも楽しいので、PLATの大きな舞台での上演を、ぜひとも逃さずにご覧いただきたいです。矢作—— ありがとうございます。

てこのところ、おとなたちの間で、ソロキャンプが流行っているという。一人でテントを張り、お気に入りの食べ物や飲み物を持ち込んで思い思いに過ごす…。

『Pekku』もまさに、そんなソロキャンプを楽しもうとする中年男性が登場する。しかしソロの自由を謳歌しにきたはずの男が会ってしまうのは、うっとうしく絡んでくる、鳥である…。

今作は、2019年にアンディ・マンリーが日本を訪れた際に見聞きした音や物からインスピレーションを得て創作された。タイトルの『Pekku』は鳥がくちばしでつつくという意味。

サウンドアーティストの荒木優光とコラボレーションした、臨場感溢れる森の音声も聴きどころであり、まるで森の全てが自分に話し掛けてくるような、そんな錯覚さえ覚える舞台音響の中で、お気に入りの椅子を広げて、コーヒーを用意して、足置きを置いて、ずっと読みたかった本を開く男…。「これで準備は万端。さあ思いっきり自分の時間を過ごそう!」とする矢先に、やたらと話し掛けてくる鳥。しかし『Pekku』で妙なのは、その鳥が、どこからどう見ても「洗濯バサミ」だということなのだ…。

子どもの頃、空に浮かぶ雲が魚に見えたり、壁の木目が顔に見えてきて何か話しかけたりしてきた…そんな体験をしたことのある人は少なくないだろう。『Pekku』の重要なキャラクターもまさにその類で、鳴いたりさえずったり、さんざん男に絡んでくる鳥のようなそれは、家庭のどこにでもあるような洗濯バサミである。これが、劇中では鳥と見立てられ、その鳥と男とのやりとりを主に公演は進んでいく。

しかし、鳥を鳥として扱わずなのが、アンディ・マンリーのうまいところで、且つ彼の「子ども観」がよく現れているところに思う。鳥は、動く訳ではない。ただ、洗濯物干しの紐や、至るところに、あくまで洗濯バサミとしている。でも、だからいい。

だから、子どもの想像力に全て委ねられる。私は、2023年のロームシアター京都での上演を子どもたちと観ていたけれど、子どもたちは終始、洗濯バサミと男の滑稽なやりとりに釘付けであった。子どもによっては、洗濯バサミが、オウムのような鳥だったかもしれない。はたまた文鳥のような小さい鳥か。色も形も人それぞれのイメージを投影したと思う。でもだからと言って、子どもは、洗濯バサミを鳥として盲信しているかという、そうでもないようなのだ。

かと言って、「そうか、洗濯バサミ＝鳥ということね」と、記号として定義づけてしまっただけで終わっているような訳でも、どうやらない。

児童文学作家の松岡享子は著書『サンタクロースの部屋—子どもと本をめぐって—』(こぐま社、1978年)の中で、こう書いている。「本当らしく見せかけることによってつくられる本当と、本当だと信じることによって生まれる本当を、子どもはそれなりに区別している。」と。

まさにその文章の通りで、洗濯バサミであると受け入れられることと鳥だと信じるということとその区別の「あわい」を行ったり来たりしながら子どもたちは生きている。

どうして、子どもたちはあわいにいることができるのだろうか。

スタジオ・ジブリの映画『となりのトトロ』の、トトロのように、2歳～6歳の子どもが「空想の友達」を持つことがあるということは、子ども研究ではよく知られている。アメリカの発達心理学者・アリソン・ゴブニックは、『哲学する赤ちゃん』(亜紀書房、2010年)の中でこう述べる。

「子どもは世界の仕組みを知ることで別の世界を想像できるようになります。他人の心を理解することで他人の行動を想像し、変えることを覚えていきます。」

他人の心の動き、私たちの社会の動き、それらが反映されたものが、空想の友達だと言う。

しかしやはり子どもたちは、ちゃんとその空想の友達が存在しないことも知っているし、現実との区別をつけているのだ。

## COLUMN

弓井茉莉那[ゆみい・まな]  
BEBERICA theatre company  
代表、演出。一般社団法人日本ベイベーシアターネットワーク理事。京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)、座・高円寺劇場創造アカデミーで舞台芸術と演劇教育を学ぶ。2016年より、0～2歳の乳幼児とおとなを観劇対象とする演劇作品「ベイベーシアター」を制作するBEBERICA theatre company(ベベリカ)を設立。2020年にアジア初となるベイベーシアター実践家のネットワークを目的とした国際イベント「第1回アジアベイベーシアターミーティング」を開催。共訳書に『出産を巡る切り絵・しかけ図鑑』(化学同人)。

アンディは見立てを多用し、子どもの中に、友達の部屋をつくっている。

文弓井茉莉那

子どもたちが自ら描き出す存在。アンディ・マンリーが描くものはいつだって、そんな空想の友達との忘れられない時間だ。大人になるにつれて子どもたちは空想の友達を失う。

アンディは、そんな現実と空想のあわいに見事に存在してられる子どもの想像力をくすぐり、そして子どもたちが描き出す時をひたすら待っているようである。

先に紹介した『サンタクロースの部屋—子どもと本をめぐって—』の中で松岡は、子どもがサンタクロースを信じることに言及した、アメリカの児童文学評論誌の一文を引用しながらこう続ける。

「幼少期の頃にサンタクロースを信じることは、その人の中に、信じるという能力を養う。(中略)心の中に、ひとたびサンタクロースを住まわせた子は、心の中に、サンタクロースを収容する空間をつくりあげている。サンタクロースその人は、いつかその子の心の外に出て言ってしまうだろう。だが、サンタクロースが占めていた心の空間は、その子の中に残る。この空間がある限り、人は成長に従って、サンタクロースに代わる新しい住人を、ここに迎え入れることができる。」

アンディは見立てを多用し、子どもの中に、友達の部屋をつくっているのだ。

洗濯バサミである鳥は男の元に留まって、なかなか離れない、これでもか!と見せつけてくるようなシーンに、子どもは大ウケする。子どもが持つ、空想への伸びしろと、そのことの無限さ、それでいて現実を捉えようとする客観的な物事へのまなざしのかげがえのなさに、子どもの傍で見ている大人は気づくのではないか。そして、大人は自らの心にかつていた何者かを思い出そうとするのかもしれない。

この公演を子どもと観に行っ、ラストシーンについてぜひ子どもと話してほしい。子どもの目に、大人の目に、それぞれどう映るだろうか。

7月24日[水]11:00開演、14:00開演

作=アンディ・マンリー、イアン・キャメロン、ショナ・レップ

出演=アンディ・マンリー

推奨年齢=3歳～6歳

上演時間=約35分

会場=PLAT アートスペース

プラット親子あくわくプログラム2024

# 『ペック』from スコットランド

好奇心と遊び心あふれる楽しいパフォーマンス

## PLATレジデンス事業 新作共同制作 アマヤドリ『牢獄の森』

6/14 [金] 19:00開演 **好評発売中**  
6/15 [土] 14:30開演  
6/16 [日] 14:30開演 **6月15日のみ**

作・演出=広田淳一  
出演=倉田大輔、沼田星麻、宮川飛鳥、稲垣千城、星野李奈 ほか  
会場=PLATアトスペース  
料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般4,000円、U25 2,000円、高校生以下1,000円  
※15日(土)終演後トークあり  
※18歳以下のお子様無料招待対象公演。先着100名、プラットチケットセンター(電話・窓口)にて受付中。



## 『La Mère 母』 **好評発売中**

6/29 [土] 13:00開演  
6/30 [日] 13:00開演



## 『Le Fils 息子』

6/28 [金] 13:00開演(追加公演)  
6/29 [土] 18:00開演

家族に自分の人生を捧げた一人の女性の喪失と再生の物語『La Mère 母』の日本初演、2021年度に上演し、高い評価を得た『Le Fils 息子』の再演、二作を同時上演します。  
作=フロリアン・ゼレル  
翻訳=齋藤敦子  
演出=ラディスラス・ショラー  
出演=『La Mère 母』若村麻由美、岡本圭人、伊勢佳世、岡本健一 / 『Le Fils 息子』岡本圭人、若村麻由美、伊勢佳世、浜田信也、木山廉彬、岡本健一  
会場=PLAT主ホール  
料金=[全席指定]『母』『息子』S席セット券18,000円、S席10,000円、A席7,000円 ほか

## プラット親子わくわくプログラム2024 『ペック』 **好評発売中**

fromスコットランド  
7/24 [水]

11:00開演 / 14:00開演 **両公演対象**

スコットランドからやってくる、こどものためのノンバーバル(ことばのない)パフォーマンス。初めての劇場体験におすすめです。  
作=アンディ・マンリー、イアン・キャメロン、シヨナ・レップ  
出演=アンディ・マンリー  
推奨年齢=3歳~6歳  
上演時間=約35分  
会場=PLATアトスペース  
料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]おとな1,500円、U25 700円、こども(0~18歳)500円



## 『オーランド』 **好評発売中**

8/1 [木] 18:30開演  
8/2 [金] 13:00開演  
8/3 [土] 13:00開演  
8/4 [日] 13:00開演

20世紀モダニズム文学の重鎮で最も有名な女流作家のひとりであるヴァージニア・ウルフの代表作『オーランド』。主人公オーランドが、時代も国境もジェンダーも飛び越えて、数奇な運命に立ち向かい、真実の「私」を探求する物語をお見逃しなく。  
原作=ヴァージニア・ウルフ  
翻案=岩切正一郎  
演出=栗山民也  
出演=宮沢りえ、ウエンツ瑛士、河内大和、谷田歩、山崎一  
ヴァイオリン演奏=越川歩  
会場=PLAT主ホール

ウエンツ瑛士

山崎一

宮沢りえ

河内大和



## 加藤訓子プロデュース 『メタクセナキス』 **好評発売中**

8/24 [土] 14:00開演

20世紀の偉大な作曲家クセナキスの楽曲を加藤訓子プロデュースにより打楽器と能舞でお贈りします。  
会員先行=6月15日(土)  
一般発売=6月29日(土)  
出演=加藤訓子(パーカッション)、中所宜夫(能舞)、IX percussion(篠崎陽子、濱中陽香 ほか)  
演奏予定曲目=『プレイアデス』『ルボン』『ブサツア』  
会場=PLAT主ホール  
料金=[全席指定]一般5,000円 ほか  
【特別協賛】サーラグループ



託児サービス対象公演  
要予約。生後6ヶ月以上。  
お一人様500円。お申込み、お問合せは  
プラットチケットセンターまで



マイセレクト4 対象公演

# PICKUP

## ふらっと文化祭「Art Platter」Vol.2

Platter(大皿)に盛り合わせた、朗読、美術、音楽、映画etc...から、  
あなたの“好き”を召しあがれ!

芸術を多様な角度から楽しめるふらっと文化祭「Art Platter」。  
さまざまな作り手たちと、朗読や美術、音楽、ワークショップ、映画など盛りだくさんの3日間をお贈りします。  
総合企画=桑原裕子(穂の国とよはし芸術劇場PLAT 芸術監督)  
【特別協賛=サーラグループ】



## 平田満 映画&トーク 映画「こころの通訳者たち」 上映&トーク

9/14 [土] 14:00開演

映画「こころの通訳者たち」の上映と、俳優平田満と本映画のプロデューサーであり出演者の平塚千穂子をゲストに迎え、トークイベントを行います。  
会員先行=7月6日(土)  
一般発売=7月27日(土)  
出演(トーク)=平田満、平塚千穂子(シネマ・チュブキ・タバタ 代表)  
会場=PLATアトスペース  
料金=[全席自由・整理番号付]一般1,500円、U25 700円

## 蟹江杏・ 参加型ライブペインティング 「あんずといっしょに、 おおきな絵を描こう!」

9/15 [日] ①10:30 ~ 11:30  
②13:00 ~ 14:00  
③15:00 ~ 16:00

画家の蟹江杏と一緒に、縦3メートル・幅10メートルの大きな絵を描く参加型のライブペインティングを開催します。完成した作品は翌日に展示します。  
講師=蟹江杏(画家)  
会場=PLATアトスペース  
対象=3歳以上、小学生まで 定員=各回30名(先着順)  
参加費=500円  
申込方法=7月27日(土)10:00より受付開始。劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

## 室井滋トーク&朗読LIVE 「しげちゃんのおはなし会」

9/16 [月・祝] 15:30開演

俳優、エッセイスト、絵本作家として豊かな才能をみせる室井滋によるトークショーと、朗読や絵本の読み聞かせを生演奏に乗せてお贈りします。音楽にはアルケミストのピアノ・井尻慶太が出演します。  
会員先行=7月6日(土)  
一般発売=7月27日(土)  
出演=室井滋、井尻慶太(ピアノ)、桑原裕子(司会)  
会場=PLAT主ホール  
料金=[全席指定]一般2,000円、U25 1,000円



## 日本文学シアター Vol.7 『夫婦パラダイス ~街の灯はそこに~』

9/22 [日・祝] 15:00開演  
9/23 [月・休] 14:00開演

日本文学へのリスペクトから新たな劇世界を創出する「日本文学シアター」シリーズ。その第7弾は、織田作之助の名作「夫婦善哉」をモチーフにしたオリジナル戯曲!  
会員先行=7月13日(土)  
一般発売=7月20日(土)

尾上松也

瀧内公美

鈴木浩介

福地桃子

高田聖子

段田安則



## ガンバの大冒険

日本文学へのリスペクトから新たな劇世界を創出する「日本文学シアター」シリーズ。その第7弾は、織田作之助の名作「夫婦善哉」をモチーフにしたオリジナル戯曲!  
会員先行=7月13日(土)  
一般発売=7月20日(土)



作=北村想  
演出=寺十吾  
出演=尾上松也、瀧内公美、鈴木浩介、福地桃子、高田聖子、段田安則  
会場=PLAT主ホール  
料金=[全席指定] S席8,000円、A席6,000円 ほか  
※各発売日初日はお一人様1申込につき1公演4枚までの枚数制限あり。

**井垣壮太 × 赤峰幸生  
コンサート&トーク**  
—ピアノと服づくりの源にあるもの—  
9/28 [土] 14:00開演



2015年度プラットワンコインコンサートほか当劇場のコンサートやイベントに出演してきた豊橋市出身のピアニスト井垣壮太によるオリジナル企画。  
「世界一のテーラー」と呼ばれ、半世紀以上にわたって日本のクラシックファッションにおける文化を牽引してきたファッションディレクター赤峰幸生と共に、ピアノと服づくりの源にあるもの、共通する美学へと迫る異色のコンサート&トークを開催します。  
会員先行＝6月29日(土)  
一般発売＝7月13日(土)  
出演＝井垣壮太(ピアノ・トーク)、赤峰幸生(トーク)  
演奏予定曲目＝ショパン:舟歌Op.60、バッハ:平均律クラヴィーア曲集より数曲、主よ人の望みの喜びよ ほか  
会場＝PLAT アートスペース  
料金＝[全席自由・整理番号付]一般3,000円、U25 1,500円、高校生以下1,000円



井垣壮太



赤峰幸生

**【関連事業】ピアニスト井垣壮太による  
実演付き音楽講座**  
「バッハと親友になろう!」  
8/29 [木] 14:00 ～ 15:30

「音楽の父」といわれる作曲家バッハについて、実演を交えながら解説するクラシック音楽講座を開催します。  
講師＝井垣壮太  
会場＝PLAT 創造活動室 A  
参加費＝中・高生 500円、一般 1,000円

対象＝中学生以上で楽譜が読める方  
定員＝50名(先着順)  
申込方法＝①プラットチケットセンターの窓口・電話(0532-39-3090)で申込み②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

**劇団四季ファミリーミュージカル  
『ガンバの大冒険』**  
10/6 [日] 16:00開演

会員先行＝7月28日(日)  
一般発売＝8月3日(土)  
初演オリジナル構成・演出:浅利慶太  
原作＝斎藤孝夫「冒険者たち ガンバと15ひきの仲間」(岩波書店刊)  
作曲＝いずみたく  
会場＝PLAT主ホール  
料金＝[全席指定]S席大人6,000円、S席小学生以下4,000円、A席大人4,000円、A席小学生以下3,000円



**オペラシアターこんにゃく座  
オペラ『あん』**

10/26 [土] 14:00開演  
世界中で翻訳され映画化もされた同名小説が、原作者本人による台本でオペラに。  
今を生きるすべての人にくいのちの meaning を問いかける、こんにゃく座の新境地。  
会員先行＝8月10日(土)  
一般発売＝8月24日(土)  
原作・台本＝ドリアン助川(ポプラ社刊『あん』より)  
作曲＝寺嶋陸也  
演出＝上村聡史



出演＝梅村博美、相原智枝、高野うるお、石窪朋、豊島理恵、金村慎太郎、飯野薫、小林ゆず子、入川舜(ピアノ)、草刈麻紀(クラリネット)  
会場＝PLAT主ホール  
料金＝[全席指定]S席5,000円、A席3,000円(ほか ※18歳以下のお子様無料で招待対象公演。先着100名、8月24日よりプラットチケットセンター(オンライン・電話)にて取扱い。  
【特別協賛】サーラグループ

**ONE CON CONCERT**  
ワンコインコンサート

**若手音楽家育成事業  
プラットワンコインコンサート**

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。  
会場＝PLATアートスペース  
料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]500円

**「奏でる記憶、色づく情景」  
7/5 [金] 18:30開演 好評発売中**

高柳鞠子(フルート)  
演奏予定曲目＝ショパン:前奏曲 第15番「雨だれ」(フルートとピアノ版)、上林裕子:道の記憶 ほか



**「浮力と瞬間」 好評発売中  
8/7 [水] 14:00開演 / 18:30開演**

Femme Fatale  
安間誉和(ピアノ・作曲)、山本大地(ヴァイオリン)、鈴木崇朗(バンドネオン)、悦木啓人(ベース・クラリネット・作曲)、長谷川志樹(ピアノ)  
演奏予定曲目＝「park-grass」ほかオリジナル楽曲、アルゼンチンタンゴ ほか



**WORKSHOP**  
ワークショップ・レクチャー

**インターンシップ 2024 募集**

劇場の仕事や演劇・音楽・ダンスなどの舞台芸術に関わる仕事に興味のある方のためのインターンシッププログラム。音楽事業、ワークショップ事業の企画制作について、コースに分かれて体験的に学びます。  
※詳細はホームページをご確認ください。  
料金＝1,000円(保険料実費として)  
定員＝各コース1～2名(応募者多数の場合は選考)  
申込方法＝6月16日(日)17:00までに①応募用紙を窓口・FAX(0532-55-8192)にて提出②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

**ワークショップ縁日  
「えんげきとあをぼう」**

8/31 [土] 10:00 ～ 15:00  
9/1 [日] 10:00 ～ 12:00  
1日目はゲームで身体をほぐしつつ、オリジナルの物語を作って、2日目は作った物語をもとに演劇を創作します! ころとからだをつかって思いきり演劇で遊んじゃう2日間。  
会場＝PLAT 創造活動室 A  
対象＝小学生  
定員＝15名(先着順)  
参加費＝無料  
申込方法＝7月27日(土)10:00より①参加申込書を窓口・FAX(0532-55-8192)にて提出②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み

**TICKET CENTER** チケットセンター

**チケットの購入・お問合せ  
プラットチケットセンター**

●劇場窓口・電話  
0532-39-3090[休館日を除く10:00～19:00]  
●オンライン  
http://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]  
販売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。  
翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

**U25・高校生以下割引ご案内**

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。  
●料金＝U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:1,000円  
●購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱い。  
●その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。  
※一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



**プラットフレンズ募集  
入会金・年会費無料**

●特典  
1 公演情報をメールでご案内します。  
2 インターネットでチケット予約ができます。  
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。  
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

**18歳以下のお子様を  
無料で招待** [座席数限定・事前申込制]

文化庁による子供文化芸術活動支援事業(劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業)として、以下の公演が採択されました。ぜひこの機会をご活用ください。  
6/14 - 16 アマヤドリ『牢獄の森』  
8/1 - 4 『オーランド』  
10/26 こんにゃく座『あん』 ほか  
対象＝公演当日に18歳以下小学生以上の方  
同伴者申込＝18歳以下の子どもに同伴する保護者等のチケットを対象座席料金の半額でご用意いたします。(先着順・枚数限定)  
※公演によって申込方法が異なります。詳細は劇場HPにてご確認ください。



## それでも蝶は舞う 桑原裕子

穂の国とよはし芸術劇場 芸術監督

久しぶりにミュージカルの演出をしています。「ナビレラ——それでも蝶は舞う」という舞台で、元は韓国の Web コミックが原作。韓国では二回の舞台化、ドラマ版も Netflix で配信されている、大人気の作品です。このたび日本初上演にあたり、私は上演台本と日本語歌詞、演出として関わっていますが……いやはやこの作品、演出する身として、とても、きついのです。

漫画でもドラマでも、ご覧になったことのある方は深く頷いてくれると思います。試しに Netflix で一話だけでも観てみてください。わかります。

何がきついつて、泣かずに観ることが、ものすごく難しいのですよ。

主人公は70歳のシム・ドクチュル老人と、チェログという若い青年。友人に先立たれたドクチュルは、やりたいことを我慢してきた人生を変えるべく、長年の夢にトライすることを決めます。なんとそれは、バレエダンサーになることでした。

70歳でバレエを始めるという無謀な挑戦に、もちろん家族は大反対。心配され、近所から笑われ、ユニタード（全身タイツ）を着るだけで大騒ぎ。そもそも受け入れてくれるバレエスタジオ自体あるのでしょうか？しかもドクチュルは、趣味でやれるようなカルチャーセンターではなく、プロのバレエ団へ入団を申し込みに行くのです。嗚呼。

周囲の視線を想像するだけで自分なら心が折れそうになります。

老人の懇願を一度は断った団長でしたが、やがて一人の若者を連れてきます。バレエ団のエースでありながら問題を抱えて伸び悩んでいるこの青年をマネージャーとして管理してくれるなら、代わりに彼がバレエを教えると。その青年こそが、チェログです。当然嫌がり、まともに教えようとしなないチェログでしたが、ドクチュルの情熱と忍耐力に突き動かされるように、やがて本気でバレエを彼に教えるようになり、気がつく二人は、孫ほど離れた年の差を超え、互いに夢を追う同士になっていくのでした。

新しく何かを始める、ということが年を重ねるほど難しくなると、身に沁みて感じる今日この頃。

くだらない話ですが、私は昔からテレビゲームが好きです。この仕事が終わったら絶対に没頭するぞ!と思って購入するのに（大人だから購入力はあるんですね）、最近では、まだ仕事が残ってるとか、今日は洗濯しなきゃとか、ああだこうだとかなかなか始められない。怖いゲームは一人じゃ出来ないから、どうしたら出来るかなあ……例えば、配信とかしてみるのはどう?と思いつき、やり方を調べてみるものの、機材を調べるのが面倒、覚えられない、配信したとて誰も観てくれなかったらそれはそれで恥ず

かしい。やりたい気持ちを秒で言い訳が凌駕していきます。

思春期の若者は自意識が強く、人と違うことをしたり、注目を集めることに抵抗があるものですが、大人になるとその恥じらいや恐怖がドンドコ消えていくものだと思っていました。だけど中年になると、かつて恥ずかしかったことが気にならなくなる反面、新しいことに向かうということに、今さら失敗する怖さがつきまといます。

けれどドクチュルはいいます。「怖いのは、家族の反対でも周りの心配でもなく、やりたかったことが出来なくなってしまうことだ」

実はドクチュル、老いるということに加えて、誰にも言えない大きな大きな恐怖を抱えています。でも、だからこそやるのだ、という強い信念を持っています。その怖さの秘密が明かされていく過程はもちろん芝居の見どころではありますが、それ以上に、彼の強い思いと、それを受けて変わっていく若者チェログの姿に胸をわしづかみにされます。チェログもまた若者ならではの苦悩を抱える青年だからこそ、互いの夢が共鳴する瞬間のまぶしさ。そんな彼らに理解を示し、支える家族や仲間の姿もまた。

普段、泣ける芝居が至上だなんてまったく思っていないし、じめっとした人間ドラマや、崇高な恐怖演劇、最高のコメディが好きな私ですが、この作品は素直に、お客さんとしてワンワン泣きたい作品です。

が、演出となるとたいへん困りものです。台本書いているときは一人で泣いてりゃいいんですけど、稽古で良い演技を観るたびウルウルしてたら進みません。初稽古の本読み時はキャストたちに加え、私の横で振付師やプロデューサーまでがズルズルに泣いていて、前途多難だと予感しました。今も、毎日キャストと私、がまん比べのような日々です。なにせ自分らが感動してお客さんが冷え冷えとしているなんてことになったら目も当てられませんから、必要以上に目つき悪く、やぶにらみで稽古に臨んでおります。

ですけれどね。まるでこの役を演じるために演劇界へ降臨したかのような、バレエダンサーとしても素晴らしく、今年菊田一夫演劇賞まで取ってしまった若きスター三浦宏規さんと、日本のロビン・ウィリアムズと呼ばれたい川平慈英さんの切ない表情を観てしまったら、あーた……いかにいかに、カームダウン。私はやぶにらみ、皆さんにお楽しみ頂けるように、尻の肉つねってがんばります。

## SPONSOR 広告募集

知識製造業  
三遠機材株式会社  
http://www.san-en.co.jp

YOSHINO ASSOCIATES architects & engineers  
吉野設計研究所  
http://www.440a.co.jp

有限会社 魚伊  
電話 52-5256

グロトリアンピアノ地域特約店  
白羽楽器 株式会社  
電話 053-464-3015

ケンチワ 701  
KURONO ARCHITECT STUDIO  
y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタジオ  
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら  
精文館書店  
TEL.54-2345

ONOCOM なければつくる  
株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科  
医療法人栄真会 伊藤医院  
豊橋市小池町宇原下35 電話45-5283 (代)

創業文政年間  
表巻きく宗  
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。  
豊橋調理製菓専門学校  
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809



豊橋銀行協会 (順不同)  
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行  
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 三十三銀行  
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶屋菓子専門店  
若松園  
御菓子司

気まぐれコンサート  
事務局 / 0532-62-9259 (小川)

安心・安全な地下駐車場  
パーク500  
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科  
医療法人 塩之谷整形外科  
理事長 塩之谷 香  
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 舟ちくわ

井上皮フ科クリニック  
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00  
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝  
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。  
共和印刷株式会社  
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科  
医療法人 大岩整形外科・皮フ科  
院長 大岩俊夫 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆  
書道用品専門店  
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得  
株式会社 三光製作所  
三光精密工業株式会社  
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala  
サーラグループ



## SUPPORT 特別賛助会員のご紹介

私たちは穂の国とよはし芸術劇場の活動を支援しています。

- 株式会社アイセロ
- 旭精機株式会社
- 株式会社イクモ
- 税理士法人イグラ会計
- イノチオホールディングス株式会社
- 株式会社エクステージ
- 大和田和恵
- 株式会社オリエント楽器
- 医療法人佳道会 藤城歯科医院
- 蒲郡信用金庫
- 川西塗装株式会社

- 河原崎 妙
- 株式会社三光製作所
- 三光精密工業株式会社
- サーラエナジー株式会社
- 株式会社サーラコーポレーション
- 三遠機材株式会社
- 株式会社東雲座カンパニー
- 株式会社シュガーサウンド
- 大三紙業株式会社

- 戸田淳子
- トヨタネ株式会社
- トヨネ株式会社
- 株式会社豊橋印刷社
- 豊橋芸術文化事業サポート株式会社
- 豊橋ケーブルネットワーク株式会社
- 豊橋信用金庫
- 豊橋倉庫株式会社
- 豊橋鉄道株式会社
- 早川直宏

- 株式会社平松食品
- 藤城建設株式会社
- 学校法人藤ノ花学園
- 株式会社豊川堂
- 松井商事株式会社
- 村田小児歯科センター
- 物語コーポレーション
- 有楽製菓株式会社 豊橋夢工場
- 若松園
- 匿名会員1名 (五十音順)

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地  
電話=0532-39-8810[代表] (9:00-20:00)  
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。  
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。  
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、  
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。  
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、  
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT